

事業所名	グループホーム倉敷 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年12月27日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 ディサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士 B:現職 理学療法士 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・理念は端的で、重みのある「誠心誠意」である。理念に基づくケアを実践するための仕組みがあり、それが確実に職員に浸透し、実践・継続されている。 ・「終身、安心して過ごせる場所でありたい」、そんな代表者の強い思いが、入居者や家族への安心感と信頼感に繋がっている。医療との連携体制がしっかりと取れており、職員の中に看護師がいるのは何より安心である。職員の研修・育成にも力を入れており、ケアの質に関しては自信を持っている。 ・代表者は、「軽いスポーツと軽い音楽が高齢者にとって大切である」と考えている。ゆったりした空間と心地よい生活の中から湧き出される動き、音、リズムが自然に生まれている。シンプルで、ゆったりと落ち着ける居間には、シッティングルームが設けられている。優しい陽射しを浴びながら、入居者同士の若やいだ声や笑い声の絶えない会話が、心地良い。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・代表者の持論である、「軽い音楽と軽い運動」の思いは、建物随所に現れている。長い廊下に沿って居室があり、突き当たりにはスタンドグラスが施され、そこからは優しい光が差している。広い居間は、窓辺にシッティングルームを配置し、建物の周りには縁が取り巻き、室内にはBGMが流れており、入居者が自然に集い、おしゃべりを楽しんでいる。 ・健康な体作りの取組みとして夜間入浴を行っている。体が温まって、関節や筋肉、気分もリラックスし、血液循環も良くなって眠るので熟睡でき、目覚めも良く、体のリズムが安定している。 ・入居者の役割分担が出来ている。掃除、食事作り、洗濯などの当番が決められ、職員の自然な支援を受けながら、無理なく役割を楽しんでいる。 ・雨や歌といった色々なボランティアの訪問がある。また、法人内でのカラオケ大会に出場したり、町内の子ども会や中学生の訪問などもある。また、一泊旅行や、チボリ公園へ遠足に行くなどの楽しみごとが豊富にある。 ・「お慶の日」を決め、入居者が献立を考えて買い物に行き調理する、自作メニューの日を設けている。食べること、作ることを楽しみ作りをしている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・旧備中国、倉敷天領地の肥田や配水の面影が色濃く残る中に、「グループホーム倉敷」がある。白壁の蔵をモチーフにした倉敷らしい建物で、地域への愛着を感じる。瀬戸中央道早島インターや国道2号線からすぐの場所で、交通の利便性も良い。近くには、スーパーや郵便局もある。 ・代表者は、「高齢になって障害がある方をずっと支援していきたい」「終身、安心して過ごせる場所を提供したい」と考えており、健康面での安心や、これまで過ごして来たように生活できることを確実に実践している。また、夜間行われている入浴支援は、認知症のある高齢者の体の特性からも、様々な良い効果をもたらしている。 ・母体法人は、複合福祉施設を総合的に運営しており、グループホームは地域に先駆けて設置されたホームでもある。職員の研修や育成は、継続して確実に行える体制があり、ケアの質に関して専門的な安心感がある。 ・医療との連携は開設当初から行われ、近くには協力医療機関があり、入院することもできる。医療連携として、看護師の訪問もあるが、職員の中に看護師がいるため、入居者の状態を察知して体調の変化にも素早く対応できる。 ・法人の名称は、氏神さまである「高橋神社」から由来している。法人設立当初からの努力により、地域との繋がりは益々強固なものになっており、4月以来3回行われている運営推進会議では、家族・行政・町内・愛育委員・民生委員などの出席により、既に定着している感がある。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・記録類がとても良くできている。提案として、医療機関への受診・指導などの情報伝達の記録がきちんとできているので、書面上、より把握しやすい箇所に記録されてはどうかと思う。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	ブライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・家族が面会に来られた際には、面会票に記入して面会箱に入れてもらうようにしており、個人情報の保護に配慮している。 ・役割意識を持ってもらう取組みが定着しており、入居者一人ひとりが、その日の自分の当番を楽しんでいる。掃除をする人、洗濯を干す人、調理や洗い物をする人等々である。また、手芸や絵を描くなど、音得意だったことなども上手に引き出している。 ・菜園での野菜や花作りをととても楽しみにされており、毎日手入れをして収穫を楽しんでいる。建物の周りには実なる木が植えられており、季節ごとに花や収穫を楽しむことが出来る。イチジクや桃、金柑や花梨などをジャムにしたり、漬物にしたりして生活に遊びや広がりを持たせている。 ・各居室へ出入りする時には、ノックをして許可をもらう等、入居者に対する配慮が自然に行われており、プライバシー保護への配慮の高さを感じた。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修・実習・勉強会などは、法人として取り組む体制があり、より専門的な課題についての研究がなされている。年間スケジュールにより、施設内・施設外と多岐にわたる研修内容を実行している。 ・各種委員会や接遇委員会による、マナー・態度等の倫理面での取り組みなどにより、法人理念である「誠心誠意」の質の向上に向け、代表者・職員が一丸となっている。 ・事故やヒヤリハットは、まず職員のミーティングにより検討・協議を行うが、リスクマネジメント委員会でも取り上げ、代表者も交えて再発防止に向けて検討・協議を行っている。より良いケアをしようとするほどリスクは付きものであり、介護現場だけでは解決できない事例を法人全体で共有してもらえらる仕組みがある。 ・転倒事故や離脱(徘徊)などの防止に向けて、フロアにクッション材を使用し、楽しみごとを増やすなど、ハード面・ソフト面両面から前向きに取り組んでいる。生活の活性化を行えば、事故は防げるという良い見本でもあると考える。 		